

■フィリピン：海洋温度差発電を推進

エネルギー省（DOE）は2011年7月4日、6月に始動した国家再生可能エネルギー計画（NREP：National Renewable Energy Program）の一環として、ルソン島中部のサンバレス州（カバンガン地点）に1万kWの海洋温度差発電（OTEC：Ocean Thermal Energy Conversion）の施設を建設すると発表した。フィリピンでOTEC施設が建設されるのは初となる。NREPは、総額110億ペソ（約206億円）を投じて20件程度の再エネ事業を実施し、2030年までに再エネの発電能力を現在の537万kWから1,526万kWに引き上げることを目標としている。DOEの関係者は「海に囲まれたフィリピンにはOTECの理論上の資源量が1億7,000万kWあり、建設候補地も多数ある。サンバレス州のOTEC施設では、今後の開発に向けデータの収集・分析を行う」とコメントしている。